

# 令和5年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立大家小学校
実施日	令和6年2月15日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○校長先生が示した経営ビジョンをもとに、学校運営ができています。行事等の反省が生かせればもっと良くなると思う。 ○職員みんなで意見を出し合い、協力できている。	A	○地域との連携、協働して学校の運営が図られ学校教育方針に沿った特色ある学校づくりが行われている。また、地域の方と協働した豊作応援団や、その活動を通じた食育、大学と連携したプール指導等、小規模校としての特色を活かしながら学校運営が進められている。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	○管理職が、領域主任と連携を図りながら組織的に対応できている。また、些細なところも報告できる体制となっていて、組織的に動いている。管理職・教員内での報告・連絡・相談を引き続き心がける。 ○警察を呼んで不審者対応訓練をする等し、トラブルについては職員で共有して取り組んでいる。	A	○学校メールシステムにより、保護者等への迅速な情報提供がなされている。 ○日頃から登下校時の安全を守るため、職員がよく対応している。また、降雪時の通学路確保のための雪かき等、事故未然防止がなされていた。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	○管理職を中心に本校はかなり業務の見直しを図っているが、まだまだ業務が多い。会議の回数が減った分、一度の会議が長く、なるべく精選しようとしているが勤務時間を超えることも多い。今後も精選していくことが必要。○休暇を取りたい、出張(研修)に行きたくても、重なってしまうと、人員不足で出られないこともある。人員確保をお願いしたい。○遅くまで残ることになってしまっている教員がいるため、分担して残業時間が伸びないようにしていきたい。私生活を充実できるように配慮できるとより一層よい仕事環境になると思う。	B	○仕事量が多い中、残業を減らす方向への努力が見られる。 ○子ども達の為に時間を割いている様子が分かり、時短の難しさが伺える。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	A	○一人一授業をし、全体やブロックで研修を進めることで、授業の質の向上が図られた。一人一人が子どもたちにわかりやすい授業を心がけており、授業研や研修で学んだことを授業で生かしている。 ○学校課題研究の全体研修やブロック研修の打合せの場の設定が十分ではなく、主題や実施方針が十分に理解されないまま進んでいる。主題、仮設、手だてが確立していると、授業実践や研究授業参観の視点が定まるので、改善できるとよい。	A	○教科書やノート、電子黒板、通常の黒板、タブレット等必要に応じて様々な媒体を使って工夫し、楽しくわかりやすい授業が行われている。 ○補助の先生を付け、遅れの出そうな児童に寄り添う姿や、子ども同士の話合いが活発に行われて、学び合う姿勢が見られる。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	○いじめ防止強調月間が設けられ、子どもと一緒に様々なもの(道徳と関連させてより意識的に)取り組めた。 ○一年を通して畑を行うことで豊かな心を育む授業展開につながっている。 ○学校全体で、いじめ予防、防止について取り組み、子どもも教職員も一人一人考えることが大切である。何かあったときは教員同士で話し合い、個別に対応している。担任だけでなく、学校全体で子どもたちを育てている。	A	○指導形態の工夫が図られ、個に応じた学習が進められている。また、自分を大切に仲間を敬う、物を大切にすることを養う授業を今後も大切にしたい。 ○地域人材を活用し、体験的な学習の機会を多くすることにより、豊かな心の育成が図られている。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○校内では、よく挨拶ができる。家庭で愛されて育ち、のびのびと自己表現できる児童が多い。また登下校中の地域の方へのあいさつが十分できておらず、子どもと地域をつなぐためにもそこを充実できるとよい。 ○先生方が子どもたちと向き合っているため、子どもたちの意欲は高い。ただ、個々に見るとできていない児童もいる。個別の対応が必要。 ○共通理解・共通行動をもっと図られるとよい。引き続き教員自身の態度を気をつけて子どもたちと接していく。	A	○一人一人の子どもによく目が行き届いていて、先生への信頼が感じられる。また、先生の話をしっかり聞こうとしている児童が多い。 ○コロナ禍で人と会う機会が減り、多少、地域の方々へ自分からあいさつするのが出来づらくなっているものの、こちらからあいさつ・声がけをしたら必ず応じてくれます。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のため積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	○管理職が先頭となり、毎月のチェックで皆が意識でき、倫理確立についてははやっている。本校は、放課後も教職員が職員室にすることが多い。それこそ過剰しやすいからだと思う。若手が意見をもっと言える環境になると、より風通しの良い職場になると思う。 ○何でも話せる雰囲気があり、安心できる職場である。一人で解決できないこともみんなで考えられるので、一人で抱えることが無い。	A	○先生同士の会話も活発に行われており、雰囲気の良い職場づくりが行われている。引き続き意欲的に取り組んでほしい。 ○少人数の学校の良いところで、先生方も職員室に居る事が多いというので、これは安心出来ます。 ○教員は時に厳しいながらも児童に向き合っていて接していると感じる。また、協力的で柔軟な対応をされていると思う。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にすることを大切にしている。	A	○職員室で様々な学年の児童の話を聞くことが多い。よく見て支援してくれる先生が多くありがたい。また、ケース会議などを行い、たくさんの先生方が相談に参加し、担任一人が抱え込まないように努めている。子どもたちの話をよく聴いている先生が多く、保護者に対して傾聴と受容をしっかりとしているため、大きなトラブルもない。 ○生徒指導の話合いや夏季の研修が非常に良く、教育相談主任を中心に教育相談体制を作られていて、ありがたい。相談も効果的に活用でき、複数人に対応できている。	A	○小規模校という現状がある中、先生方の努力が見受けられ、児童の資質向上につながっている。 ○困った子どもではなく困っている子どもがいるという考えで、子ども達個々に対応している温かい目が良いです。 ○管理職が教室訪問をしたり、ケース会議で様々な立場の意見交換をしたりして困っている子一人一人に対応している。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	○特別支援学級での実践で、通常級でも使える技を教えていただける。交流も計画的にでき、支援委員会も開催されている。また、毛呂山特別支援学校との連携もある。今後も特別支援教育の有り方を全教職員で学び合える環境であってほしい。 ○ユニバーサルデザインについて研修し、全体で統一した教室整備や授業の進め方など特別支援の児童への配慮が他の児童にもできるとよい。	A	○特別支援教育体制への意識も高く、積極的に進められている。 ○計画的に行われていると思う。 ○支援が必要な児童一人ひとりに向き合っていて授業が行われていると思う。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	○校内の掲示物が整理され、見やすく興味を持ちやすくなった。 ○黙読清掃ができてきた。しかし、まだまだ見切れていないところもある。担任も指導するが、清掃のやり方をしっかり見る(トイレ・階段など)期間とか作ってもよい。また、終わりの時間まできちんとやっているクラスはまちまちで、統一した指導が必要。 ○備品について不明なものもあり、清掃用具も足りていない。もっと新しいものを揃え、有効に活用したい。	B	○教室や廊下など、一人一人の作品をいつも大切に掲示・展示されており、豊かな心の育成にもつながっている。 ○清掃も良い活動なので、引き続き指導してもらいたい。 ○校内は整理整頓され、清掃も必要な所はきっちり行われていると思う。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	○HPは概要を、マメールで詳細を周知することができている。 ○問い合わせについて、誠実に答えていると思う。ホームページで公開できることはたくさん発信できるといい。 ○もっと小中での交流や情報交換をした方がよい。開かれた学校づくりを推進する中で、他校のやり方等も学ぶべきと考える。	A	○学校だよりやマメールなどを通し、学校の様子について必要な情報発信・提供が行われている。 ○個人情報のこともあり、昔の様に沢山載せるのが難しく、働き方改革等で限られた時間の中での発信は大変だと思います。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	○今年度は読み聞かせボランティアも再開し、登下校の見守り、豊作応援団など多くの地域の方や、PTA、相談員、SC、社会教育課と連携し協力いただいている。 ○総合的な学習の時間にたくさんの方に来ていただき、話を聞くことができて、充実できた。 ○特色ともいえる学校応援団(畑応援団)との連携は、しっかりでき、ありがたい。	A	○地域人材を活用し、作物等の育成指導を受けられる等、地域の財産を上手に活用している。また、子ども達も地域やボランティアの方々を知る事が出来、防犯につながっていると思います。 ○子どもたちの安全・安心の確保に頑張っている姿は、よく見かける。管理職を先頭に職員たちも健闘している。しかし、地域の協力者が少なく、下校時の見守りが少なく心配するところ。もっと、学校から地域へ強力な協力要請をして欲しい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	○小中連携をもっと図ればよいと感じる。 ○中学校の情報が少ない。中学生での課題を軽減するため、低学年から取り組むべきことを知りたい。 ○特別支援は、交流会もあり、情報交換できているが、他はそういう機会がない。 ○やっているかもしれませんが、自分が見えていないかもしれません。	B	○大家小の児童は卒業後、2つの中学校に分かれることから、小中連携して不安なく進学できるようサポートして欲しい。 ○2校に分かれることから大変難しいと思うが、工夫しながら行ってほしい。